



Yonago East Weekly

「自分にチャレンジ！自分に奉仕！そして、ロータリーを楽しもう！」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/小谷維夫 ●幹事/永島清孝 ●会報/足立博俊

会員数83名

今週のお祝い

出席100%祝: 6年 植田(昭)君
28年 杉原弘一郎君

会長挨拶

皆さんこんにちは

今日の例会から、いよいよ小谷年度が始まります。小谷年度では何をするのかということについてお話させていただきます。井上年度では「チャレンジ100」を掲げられました。尾沢年度では「継続は力」を掲げておられました。この2つのテーマは小谷年度でも宝物として継承してまいります。

さて、今年度をどうするかということですが、まず、委員会構成として、できるだけ「継続性」を保つことを考えました。即ち、サブリーダーの方をリーダーへ、そして、リーダーの方はもう一年委員会に残っていただいて、その経験を活かしてもらうことにしました。また、仮に、その委員会を離れても兼務として残ってもらう方もおられます。私の今までの経験からも、特に、インターアクト、財団等クラブと外部のやりとりをする委員会は2年、3年とやらないと分からないものです。

そして、小谷年度のスローガンとしては、「自分に

チャレンジ・自分に奉仕・そして、ロータリーを楽しもう」ということにしました。07~08年度の新納会長年度に幹事を務めました。そのとき私が一番悩んだのは、ロータリーの3大義務の一つである「例会出席」でした。そして、今回も「例会出席を充実したい」という思いで、このテーマを掲げさせていただきました。詳しくは、この後の卓話の中でお伝えしますが、特に、「自分にチャレンジ、自分に奉仕」の中の「自分に奉仕」というところがミソでして、一人でも多くのロータリアンの方にこの例会場に帰ってきていただいて、みんなでワイワイ、がやがやと楽しく語り合いたいというのが私の夢であります。少しずつではありますが、会員が増えてきています。そういう中で、この例会場にきちっと人が集まるということがロータリーにとって大切なことであると思っています。

小谷年度のテーマは本当に簡単なことです。「例会場へ帰ろう」でございます。毎週水曜日に、この例会場へ帰ってきていただいて、元気な顔をみせていただきたいと思っております。それでは、1年間よろしくお願ひいたします。

幹事報告

1. 7/1現在83名
2. 本日ガバナー補佐訪問クラブ協議会
3. 2011-12年度伊藤ガバナー事務所閉鎖のお知らせ
4. 森田ガバナー事務所開所のご案内
5. IM報告書の送付(境港RCより)
6. 総社RC創立40周年記念誌、松山南RC創立40周年記念DVD3枚 ご恵贈賜る
7. 阿南南RCより奉仕計画ノート3部、昨年のゴルフコンペ写真ご恵贈賜る

今後の予定

- 7/18 森田ガバナー公式訪問例会
- 7/25 納涼夜間例会 三井別館
- 8/ 1 臨時総会
- 8/15 休会(定款第6条)



Peace Through service

奉仕を通じて平和を

プログラム

「会長方針」 小谷維夫会長



それでは、会長あいさつに続きまして会長方針をお話させていただきます。まず、始めに「クラブ運営計画書」の中にあるクラブ運営方針を読ませていただきます。～自分にチャレンジ！自分に奉仕！そしてロータリーを楽しもう！～

本年度の田中作次RI会長のテーマは『Peace Through Service 奉仕を通じて平和を』です。また、森田昭一郎地区ガバナーのスローガンは『tsu ku su 家庭人として、社会人として、日本人として』であります。これは、一人ひとりが自分の内面を変革し、より人間力を高めて『何事にも tsu ku su 心で臨む』ことの大切さを掲げられたものと思います。[tsu ku su]とは、『絆』の根底にある一つの核心と思います。

本年度は、「チャレンジ精神」と「継続力」を大切にして『チャレンジ100』を継承し、将来の安定化を図ってまいります。一方、会員の補強、増強と共に、更に大切なことは、ロータリーの基本である『例会に出席すること』です。今年度の具体的なチャレンジとして、『チャレンジ100%・毎週帰ろう例会場へ』を掲げます。ロータリアンとしては、毎水曜日に例会に出席しなければ何も始まりません。何も生まれません。毎水曜日の例会出席は、全ての活動の始まりであり、活動の継続力であり、より効率的で活性化されたクラブ運営を創りこみ、目標の達成へと導くと思います。「入って学び、出でて奉仕せよ」の実践を通じて、「自分創り、ロータリアン創り」に励み、実りあるロータリー生活を共に楽しみましょう。ロータリーを愛して、奉仕して、分かち合いましょう。

小谷年度は、～自分にチャレンジ！自分に奉仕！そしてロータリーを楽しもう！～と、具体的なテーマ、スローガンとして『チャレンジ100%・毎週帰ろう例会場へ』を掲げました。井上年度からは、『チャレンジ精神』を尾沢年度からは「継続力」をそれぞれ継承しつつ、ロータリアンの最も基本的な重要な責務であり、ロータリアンの3大義務である『例会への出席』、その結果としての「出席率の向上」、言い換えれば、『出席率の復旧・復興』に取り組んでまいります。一人でも多くに会員がこの例会場へ毎週寄り道せずに帰っていただきたいのであります。

では、なぜこの『チャレンジ100%・毎週帰ろう例会場へ』のテーマを掲げたのかについてお話しします。私はクラブ会員の一人として、『例会出席』の現況について大きな課題を感じています。ここ20年来、例会出席の状況は少しずつ下がってきています。バブル崩壊後の経済状況の変化等々いろいろな原因があり、例会出席が難しい状況になってきていることは理解できます。しかし、ロータリーは例会に出てなんぼのもの、例会に出てこそ価値のあるもの、ロータリーの楽しさを味わえるものと考えます。それは、会員同士が膝突き合せ、顔突き合わせて話をする。語らう。情報交換をする。そういうことの中からロータリーの楽しさ、うれしさ、また、活動が始まってまいります。

そこで、毎週確実に例会出席するにはどうしたらよいか、いろいろ考えて一つの結論に達しましたのは、『一人ひとりが自分自身を調える』ことであるということです。毎水曜日に照準を合わせ、仕事と日常生活を調整し、自分を調べていただきたいのです。

さて、その上で課題になるのは、例会に足が遠のいている会員にいかにも例会に出席していただくのかであります。そこで、思いついたのが、『卓話の時間の有効活用』についてです。例会をつぶさに観察していて、会長挨拶、幹事報告、委員会報告、卓話など、ご自分の思いを皆さんに話しかけることは、お話をされる方にとって、楽しく、面白いことであると感じました。話された後、自分自身のボルテージが上がり、モチベーションも上がると思いました。そこで、会員卓話を大いにさせていただくことを会長方針の一つとしていきます。

このためには、プログラム委員会、出席委員会、親睦委員会の皆さんが協力して、会員さんの仕事、趣味、芸事等々の情報収集をしていただき、特に、足の遠のいている会員さんに卓話をしていただき、『例会に出てきてよかった。みんなの顔が見れてよかった。やっぱりロータリーはいいなあ』と感じていただくようなものをつくっていきたいと思っています。その結果、例会出席の状況がベターな方向へと転じていくはずですよ。

例会は、ロータリアンにとって毎週元気に帰るべき家、ロータリー家族が待つ家、米子東ロータリークラブという名の大きな家なのです。どうか、毎水曜日に大きな家にお帰り下さい。そして、チャーターメンバーであられ、家長である村上一平会員に元気な姿をアピールしましょう。

終りにあたり、会長として、私自身の心構えをお話させていただきます。一言で言えば、「楽しんじゃおう」ということです。どんな物事も前向きに受け入れ、苦しみも楽しみに変えてしまおう。という心構えでいきます。どうか、この1年間、ご理解、ご協力のほど、心からお願い申し上げまして、小谷年度会長方針の表明とさせていただきます。ご清聴、まことにありがとうございました。

次回プログラム

7/18 森田ガバナー公式訪問例会

7/25 納涼例会（三井別館）